

展示公開施設の館内環境調査報告

—平成15年度—

石崎 武志・佐野 千絵

1. はじめに

保存科学部は博物館・美術館・資料館などの文化財公開施設で、借用などの移動を伴う文化財等の展示があるときに、当該施設の館内環境調査を文化庁美術学芸課と協力して行っている。その調査については以前述べたが¹⁾、平成5年度からは各館ごとに館の規模や施工時期などについて、あらかじめ定まったフォーマットに従って整理している。平成5年度～14年度についてはすでに報告したので^{2～11)}、ここでは、平成15年度に行った館内環境調査に関して概括する。集計方法などについては、前報と同じである²⁾。相談件数および相談件数の経時変化、相談館の地域分布、開催時期、借用計画をたてた時期、コンクリート打設完了から開館までの期間について図示する(図1～6)。また、平成15年度に報告書を書いた24館の基礎データを表1に記す。

表1 調査館の基礎データ

No.	着工	コンクリート 打設完了	竣工	開館	借用時期	延べ床面積 (m ²)	展示面積 (m ²)	収蔵庫面積 (m ²)	博・美	運営団体
1.	2000.5	2001.5	2001.12	2002.4	2003.10	2,095	763	35	博	市
2.	1994.11	1995.10	1996.3	1997.11	2003.7	3,255	990	380	博	市
3.	2000.6	2002.7	2002.3	2004.4	2004.4	3,500	1,434	512	博	市
4.	1998.2	1999.2	1999.9	2000.4	2003.10	6,745	1,328	671	美	県
5.	2001.10	2002.11	2003.7	2003.11	2004.4	12,015	1,000	250	美	市
6.	2001.10	2001.12	2002.7	2004.4	2004.4	1,850	490	440	博	町
7.	1993.10	1995.3	1995.4	1995.11	2003.7	2,172	714	417	博	県
8.	2001.12	2002.12	2003.4	2003.4	2004.4	1,351	203	なし	博	その他
9.	1979.10	1980	1980.9	1981.8	2003.7	2,052	459	464	博	県
10.	2001.7	2002.7	2003.3	2004.3	2004.3	3,915	1,115	505	博	市
11.	2001.6	2001.11	2002.6	2002.7	2003.8	2,718	1,084	117	美	その他
12.	2000.7	2001.12	2002.5	2002.10	2003.12	14,459	1,318	634	美	県
13.	1993.1	1993.9	1994.3	1994.10	2003.10	1,730	516	200	博	市
14.	2001.10	不明	2003.3	2003.3	2003.9	不明	不明	不明	博	市
15.	1996.10	不明	1998.3	1998.11	2003.9	3,450	不明	不明	博	町
16.	1998.9	不明	1999.9	1999.10	2003.11	2,280	374	67	博	その他
17.	1999.3	2001.2	2001.9	2002.4	2003.10	27,461	不明	不明	美	県
18.	2001.9	2002.5	2002.9	2003.1	2003.6	1,495	401	64	美	市
19.	2000.8	2001.8	2002.2	2002.10	2003.3	4,195	1,076	468	博	県
20.	2002.3	2002.6	2002.10	2003.10	2003.9	63	なし	63	博	その他
21.	1999.7	不明	2001.4	2002.11	2003.10	15,991	6,202	2,506	博	市
22.	1992.10	1994.7	1994.9	1995.2	2003.9	1,332	356	648	博	市
23.	2002.8	2002.10	2003.3	2003.4	2003.8	422	81	81	博	市
24.	2002.3	2003.2	2003.8	2004.4	2004.4	6,678	不明	不明	博	県

2. 相談館全体の傾向

相談件数および相談館数については、図1のとおりである。昨年同様、博物館・美術館の新設そのものの件数が少なくなったが、相談件数は昨年とほぼ同じで861件であった。相談館の地域分布は、昨年同様、関東、近畿地方、中部・東海地方、中国・四国地方の公開施設が多かった。（図2）。

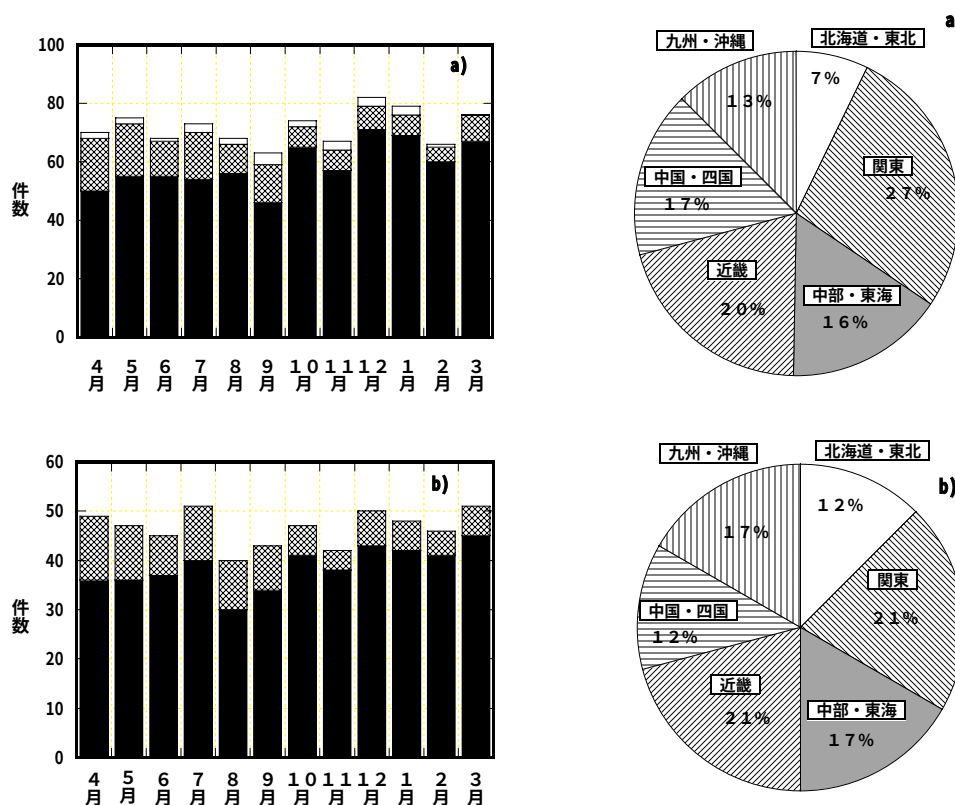


図1 保存環境に関する相談（平成15年度）
（a）相談件数 （b）相談館数

■美術館 ■博物館 □その他

図2 相談館の地域分布（平成15年度）
（a）相談館全体の地域分布
（b）平成15年度館内環境調査報告書提出館24館の地域分布

3. 平成15年度館内環境調査報告書提出館24カ所の傾向

借用時期は、開館から6ヶ月以内の施設が全体の42%、6ヶ月から1年以内のものが8%であり、開館後から1年以内の指定品の展示に関する環境調査が約半数になった（図3）。竣工から開館までの期間は、昨年は平均8.2ヶ月であったが、今年もほぼ同様に8.1ヶ月であった（図4）。開館時期については、例年通り、春の4月に多かった。また秋は、昨年同様10月、11月に多かった（図5）。コンクリートの打設完了時期から開館まで、短い館では4ヶ月、長い館では28ヶ月であり、平均値は12.7ヶ月であった（図6）。

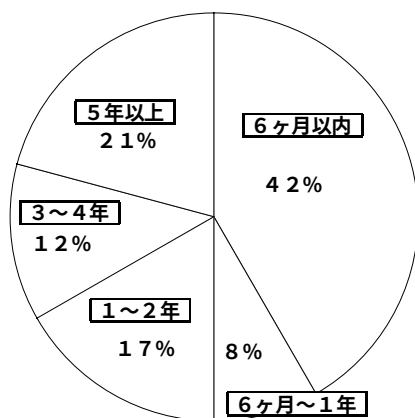


図3 開館から館内環境調査報告書を必要とする資料を借用するまでの期間

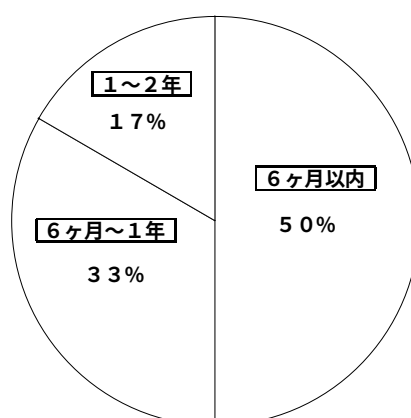


図4 竣工から開館までの期間

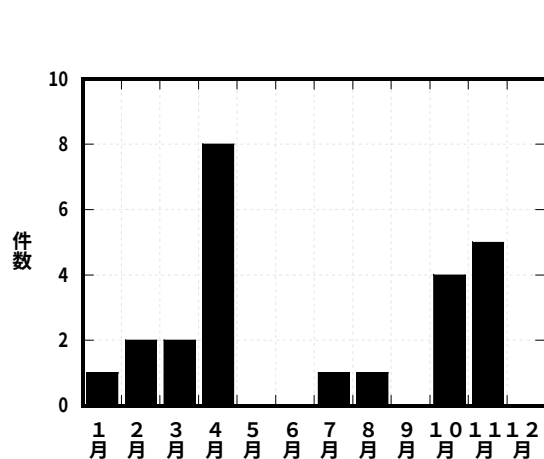


図5 平成15年度館内環境調査報告書提出館の開館月

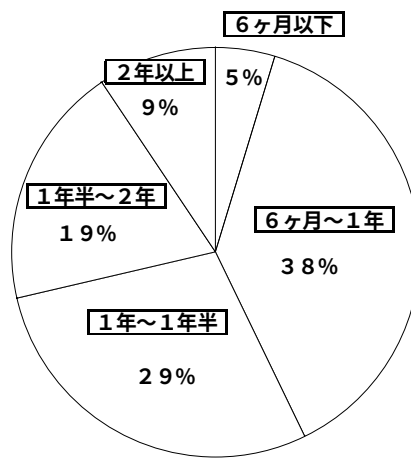


図6 コンクリート打設完了から

4. 考 察

平成14年度は、環境調査報告書提出館のうち過去1年間に開館したものが半数以上で、開館後5年以上経過した館は少なかった。15年度も環境調査報告書提出館のうち過去1年間に開館したものが約半数であった。また、15年度も開館後、なるべく早い時期に指定品を展示したいという希望が多かった。そこでは、なるべく短期間に、展示室、収蔵庫の空気環境を正常に持っていくこと、短期間に展示室、収蔵庫の空気環境を正確に測定することなどに関する要請が多かった。しかし、館によって多少の差異はあるものの、展示室、収蔵庫内の酸、アルカリ環境は、2夏を経ないと中性にならない場合が多いので、十分に空気環境をチェックする必要がある。

5. 終わりに

日本を含め先進国では2004年末に、臭化メチルは全廃になった。これからは、地球環境保護の観点から、文化財施設ではI P M（総合的有害生物管理）の立場から有害生物対策を行って行かなくてはならない。虫に関しては、有害生物を文化財施設内に入れないこと、また、施設内で虫を発見したら、その虫の同定を行い情報の集約を行うことから始めなくてはならない。カビに関しては、展示室や収蔵庫の温湿度管理により、カビを生育させないという予防を中心においた対策が重要である。

今後とも、文化庁の担当者、美術館、博物館の学芸員の方々と、綿密な連絡を取り合って、美術館、博物館の環境調査を進めていく予定である。

参考文献

- 1) 三浦定俊, 佐野千絵, 石川陸郎: 新設博物館・美術館における保存環境調査の実際, 月刊文化財 (平成5年4月号), 355, 34-42 (1993)
- 2) 佐野千絵, 三浦定俊: 国指定文化財展示公開施設のシーズニングについて—平成5年度展示施設の館内環境調査から—, 月刊文化財 (平成7年9月号), 384, 4—11 (1995)
- 3) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成6—, 保存科学, 35, 74-79 (1996)
- 4) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成7—, 保存科学, 36, 98-103 (1997)
- 5) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成8—, 保存科学, 37, 153-157 (1998)
- 6) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成9—, 保存科学, 38, 187-191 (1999)
- 7) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成10—, 保存科学, 39, 87-90 (2000)
- 8) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成11—, 保存科学, 40, 136-140 (2001)
- 9) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成12—, 保存科学, 41, 157-161 (2002)
- 10) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成13—, 保存科学, 42, 123-127 (2003)
- 11) 石崎武志, 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成14—, 保存科学, 43, 113-117 (2004)

キーワード: 博物館 (museum) ; 館内環境 (environmental condition) ; 空気環境 (indoor air pollution) ; 温湿度 (temperature and relative humidity)

Annual Report on the Inspection of Museum Environment in 2003

Takeshi ISHIZAKI and Chie SANO

The National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo, in collaboration with the Agency for Cultural Affairs (Bunkacho) advises museums on how they should design their facilities to provide adequate environment for the exhibition of nationally designated cultural objects. This report shows the results of inspection in 2003.

The number of advice given was 861 in 2003. Results of inspections were reported to 24 museums in 2003 for their exhibitions. Methyl bromide has been widely used as a useful insecticide for cultural properties in Japan. However, the use of methyl bromide was banned at the end of 2004 for the protection of the stratospheric ozone layer. Now, prevention of pest problems by Integrated Pest Management (IPM) without the use of chemicals is emphasized. Therefore, monitoring temperature and humidity in museum buildings and keeping them at appropriate levels become all the more important for preventing pest problems.

